

製品名: Cables1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07805**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	67kDa

抗原情報

遺伝子名	CABLES1
別名	CABLES1; CABLES; CDK5 and ABL1 enzyme substrate 1; Interactor with CDK3 1; Ik3-1
遺伝子 ID	91768.0
SwissProt ID	Q8TDN4
免疫原	抗血清はヒト Ik3-1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 561-610

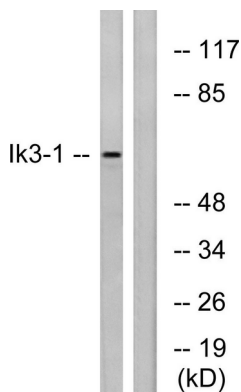
背景

この遺伝子は、いくつかのサイクリン依存性キナーゼとの相互作用を通じて細胞周期の調節に関与するタンパク質をコードしています。ある研究 (PMID: 16177568) では、この遺伝子の転写産物の異常なスプライシングにより、ヒト癌細胞においてのみサイクリ

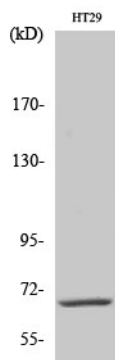
ン結合ドメインが除去され、大腸癌 (PMID: 17982127) では遺伝子発現の低下が認められたことが報告されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2012年1月]、発生段階: 子宮内膜上皮における発現は月経周期中に変動し、増殖期と比較して分泌期に多くなります。、疾患: CABLES1 の欠陥は、一部の大腸癌および扁平上皮癌に関連しています。、機能: サイクリン依存性キナーゼ結合タンパク質。非受容体チロシンキナーゼによるサイクリン依存性キナーゼチロシンリン酸化を促進します。例えば、活性化 ABL1 による CDK5 のリン酸化は CDK5 活性の増加につながり、神経細胞の発達に重要です。また、WEE1 による CDK2 のリン酸化は CDK2 活性の低下と成長阻害につながります。神経細胞の伸展にプラスの影響を与えます。p53/p73 誘導性細胞死の調節因子として機能します。、誘導: 良性子宮内膜において、プロゲステロンによってアップレギュレーションされ、エストロゲンによってダウンレギュレーションされます。、PTM: CCNE1/CDK3 によって Ser-313 がリン酸化されます。CDK5 によってセリン/スレオニン残基が、ABL1 によってチロシン残基がリン酸化されます。また、in vitro で CCNA1/CDK2、CCNE1/CDK2、CCNA1/CDK3、CCNE1/CDK3 によってリン酸化されます。、類似性: サイクリンファミリーに属します。、細胞内局在: 未熟ニューロンの細胞体および発達中の軸索軸の近位領域に存在します。軸索成長円錐に存在しますが、成熟ニューロンの軸索軸の遠位部や樹状突起成長円錐には存在しません。、サブユニット: p53/TP53 との複合体で見つかります。CDK2、CDK3、CDK5、ABL1、TDRD7、PCTK2、CCNA1、CCNE1、TP73 との多数の複合体で見つかります。CDK2、CDK3、CDK5、ABL1、TDRD7 と相互作用します。、組織特異性: 乳房、膵臓、結腸、頭頸部で発現します (タンパク質レベル)。非典型子宮内膜増殖症の半数以上および子宮内膜がんの 90% 以上で大幅に減少しました。

研究分野

画像データ



Ik3-1 抗体を用いた LOVO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



Cables1 ポリクローナル抗体を 1:500 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。

